

## NPOと県がともに働くプロジェクト事業

「NPOと県がともにプロジェクト」とは、NPOと県とが一緒になって事業費や労力を負担し、互いに持っている長所（能力や機能等）を活かしながら地域課題等の解決に取り組むプロジェクトです。事業の実施にあたっては、NPOと県の間で協働協定書を締結し、実行委員会を組織して役割や責任分担などを定め、協議をしながら取り組みます。

ここでは、平成25年度～27年度まで募集を行った同プロジェクトの事業から、3つの事例を紹介します。

平成25年度	採択数：3事業	県負担金：20,645,007円
平成26年度	採択数：6事業	県負担金：22,505,808円
平成27年度	採択数：5事業	県負担金：22,348,037円

### **(1) 女性特有のがん早期発見啓発および支え合い事**

女性特有のがんの早期発見と啓発を図るため、講演会・交流イベントや乳がん触診モデルの体験、患者の癒しの場と交流の機会を提供する内容で、平成25年度から3カ年度にわたり実施しました。

#### **■役割分担と成果**

主な役割分担として、NPOは、患者・住民目線でそのネットワークを活かして事業の企画推進や企業への協力依頼を担い、県は、市や関係機関との連絡・調整、情報提供、広報PRなどを担いました。協働の成果や効果として、NPOは、手の届きにくい関係先への周知が可能となり、佐世保市から全面的な協力が得られ事業が円滑に実施できたこと、県は、一過性のイベントに留まらず地域密着型で積極的な働きかけができ、地元ケーブルテレビ局や企業からの協力が得られたことなどを挙げています。

#### **■終了後の展開**

実行委員会での3カ年度の取組終了後は、NPOはその実績を活かして各地域（市町）と連携・協働しながら啓発活動を継続し、県は医療機関との連絡・調整等を通じ、必要に応じてNPOの事業をサポートする関係性

となっています。

【所管部局】 長崎県福祉保健部医療政策課

【相手先】 (特) 葵会

## (2) 困難を抱える子ども・若者の自立・就労支援協働事業

不登校・ひきこもり経験者・発達障害者等の若者や子どもを対象とした自立や就労支援を目的として、農作業のほか、食料品の加工や販売などでの就労に向けたトレーニングを行う内容で、平成25年度から3カ年度にわたり実施しました。

### ■役割分担と成果

主な役割分担として、NPOは、10年にわたるNPOの活動経験を活かして、専任スタッフの育成や、就労体験の受入先確保など他団体との連携に力を注ぎました。

県は、専任スタッフの採用面接時において、NPOとは異なる視点で採点のサポートを行ったり、トレーニング受講生の募集など外部周知を行い、事業への信頼性の向上に一役買いました。

本事業の実施により、トレーニングの受講者11名中3名の就労につなげることができ、健康状態・生活リズムの改善や対人不安の軽減が図られた6名が引きこもり生活から脱却することができました。

### ■終了後の展開

受講者の訓練継続と修了者へのアフターフォローが必要であるため、NPOとして引き続き事業を実施していくこととなりました。県としては、当事業の周知に関して支援を行うこととし、県の子ども・若者総合相談センターにおいて、必要に応じて相談者に対し情報提供を行い、活用を呼びかけています。

【所管部局】 長崎県福祉保健部こども政策局こども未来課

【相手先】 (特) フリースクール クレイン・ハーバー

### (3) 健康・体力・楽しみづくりの地域スポーツコミュニティ振興事業

「健康づくり」および「介護予防」に資する生涯スポーツの振興に向けて、「行政主導型」から「住民主導型」および「地域完結型」を進めるスポーツ振興の仕組みづくりに取り組みながら、地域スポーツコミュニティの育成を図る。また、スポーツ資源とそれに付加できる社会資源を持ち合わせた地域において、スポーツ（ウェル）ツーリズムのイベント等を開催することで、県民が「スポーツの多様な楽しみ方を知る」、県民を「スポーツに誘う」取り組みとし、県民のスポーツ実施率向上に貢献できる事業として、平成26年度から3カ年度にわたり実施しました。

#### ■役割分担と成果

主な役割分担として、NPOは、事業の統括や事務局を担うとともに、各市町の健康づくり推進部局との連携を図りながら、リーダー育成プログラム並びに自主サークル育成プログラムの作成・指導を行いました。

一方、県は、NPOの活動が円滑に実施できるよう、県や各市町の関係部局、関係団体との連絡・調整、事業実施上の人材育成等、必要な情報交換の場となる専門部会における人的調整を行いました。その効果として、3つの事業メニュー（生涯スポーツ事業、指導者育成事業、ウェルツーリズム事業）について、リーダー育成数やサークル地区数の目標を超える実績と高い成果を得ることができました。

#### ■終了後の展開

生涯スポーツ事業については、対馬市、小値賀町、新上五島町がフォローのための予算措置を検討中であり、今後も連携して事業の展開が見込める状況にあります。また、指導者育成事業では、スクエアステップ指導員資格保持者から、その他のスポーツ指導者に広く展開する予定であり、健康づくり、介護予防に資するスポーツ指導者の育成に向けた研修会へとさらに発展させ、本法人の自主事業として受益者負担を得て継続する予定であります。ウェルツーリズム事業では、本プロジェクト終了後も雲仙温泉観光協会とともに事業を継続できるように進めていくこととしています。

【所管部局】 長崎県企画振興部スポーツ振興課

【相手先】 (特)ウェルネススポーツ研究センター

## (4) 長崎県対馬市の在来作物「対州そば」の機能性開発事業

長崎県対馬市の在来「そば」の振興のため、実だけではなく茎と葉に着目した特産品開発を行い「そば畑」の反収増加につなげるとともに、そば茎葉に含まれるポリフェノール「ルチン」の機能性開発をすすめ、機能性食品として地域産業を育てていく事業として、平成27年度から3カ年度にわたり実施しました。

### ■役割分担と成果

主な役割分担として、NPOは、自らの専門性を生かし、対州そばの栽培試験の実施、加工の実践やサンプル採取、機能性成分の分析依頼、データ検証を行うとともに、既開発商品の改良、そば研究会のネットワークを活用した開発商品のPR協力、レシピ開発を行いました。

一方、県は、NPOの活動が円滑に実施できるよう、県や大学の研究機関、県保健所等との連絡・調整を行うとともに、協働コーディネーターの助言を踏まえた事業全体のマネジメントを行いました。その効果として、対州そばの茎葉に含まれるルチンの分量が安定する栽培方法の確立、動物実験の検証やルチンの効能の決定等、機能性表示取得に向けた道筋を立てることができました。

### ■終了後の展開

機能性表示の本格的な取得に向け、ヒトモニター試験に取り組むため、農林技術開発センター・対馬振興局農業振興普及課においては、技術的な面、対馬振興局地域づくり推進課においては周知・広報といった面からサポートを行うほか、他の助成制度を活用しながら、NPOが主体となって、引き続き、機能性表示取得に取り組んでいくこととしています。

【所管部局】 長崎県対馬振興局地域づくり推進課

【相手先】 (特)対馬次世代協議会

## (5) 汚水処理施設普及のための啓発協働事業（市民参加型演劇公演）

住民の公共用水域の水質保全に対する意識の向上を図り、汚水処理施設の適切な利用を促進するため、閉鎖性水域を抱えた諫早市を中心とした啓発活動をおこない、それを皮切りに県内に広げていく事業として、平成27年度から3ヵ年度にわたり実施しました。

### ■役割分担と成果

主な役割分担として、NPOは演劇プロデュースという自らの専門性を活かし、汚水処理に関する意識向上につながる脚本の制作、演出、市民参加型の演劇公演の運営を行いました。

一方、県は、広報活動や、市・関係機関との連絡・調整、講演当日のパネル展示、DVD 配布による普及啓発を実施しました。その効果として、事業目標であった汚水処理に関する意識向上率の増加やマンホールポンプ故障件数の縮減を達成することができました。

### ■終了後の展開

NPO が主体となり、汚水処理施設普及から、「環境問題」へとテーマをひろげ、今後も毎年、市民参加型演劇公演を実施し、県は周知・広報で引き続き協力していくこととしています。

【所管部局】 長崎県環境部水環境対策課

【相手先】 エヌケースリードリームプロ